

再 評 価 調 書

I 事業概要						
事業名	街路事業					
地区名	都市計画道路 <small>ふしみちよう</small> 伏見町線 <small>ふたみちよう</small> (二見町工区)					
事業箇所	愛知県清須市 <small>にしびわじま</small> 西枇杷島町					
事業のあらまし	<p>(都) 伏見町線は、一宮市、岐阜市方面と名古屋市中心部を結び、北東側に並行する国道 22 号を補完する、清須市から名古屋市に至る主要幹線道路である。</p> <p>このうち、当該事業区間は、清須市立西枇杷島小学校の通学路に指定されているが、歩道が狭小であり、歩行者及び自転車の安全確保が求められている。また愛知県地域防災計画で第 2 次緊急輸送道路に指定されている。</p> <p>このため、「交通事故対策の強化」「緊急輸送道路の強化」を主な目的として、(都) 伏見町線(二見町工区)の現道拡幅整備を実施するものである。</p>					
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>① 交通安全対策の強化</p> <p>② 緊急輸送道路の強化</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>					
計画変更の推移		事業採択時 (1992 年度)	再評価時(1 回目) (2016 年度)	再評価時(2 回目) (2021 年度)	変動要因の分析	
	事業期間	1992 年度 ～2014 年度	1992 年度 ～2019 年度	1992 年度 ～2024 年度	用地交渉の 難航による延伸	
	事業費(億円)	17.8	17.8	17.8		
	経費 内訳	工事費	1.7	1.7	1.7	
		用補費	14.9	14.9	14.9	
その他		1.2	1.2	1.2		
事業内容	現道拡幅整備 延長 L=321m 幅員 W=20～24m 車線数 2 車線	同左	同左			
II 評価						
① 事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事業採択時の状況】</p> <p>① 交通安全対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業区間は西枇杷島小学校の通学路に指定されているが、歩道が狭小であり歩行者・自転車の安全確保が求められる。 <p>② 緊急輸送道路の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛知県地域防災計画で第 2 次緊急輸送道路に指定されており、緊急時の避難・救助機能を向上することが必要である。 <p>【再評価時(1 回目)・再評価時(2 回目)の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 依然として西枇杷島小学校の通学路に指定されており、歩道が狭小であり歩行者・自転車の安全確保が求められる。 第 2 次緊急輸送道路として位置づけは変わらず、必要性に変化はない。 <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要性に大きな変化はない。 				

判定	B	<p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。</p> <p>B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。</p> <p>C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>※事業着手時と比較することが適当ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。</p>																																																																																																																																																																																																																						
	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依然として歩道が狭小であり、歩行者・自転車の安全確保が求められるため。 																																																																																																																																																																																																																							
1) 進捗状況	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>1991</th><th>~</th><th>1995</th><th>1996</th><th>~</th><th>2000</th><th>2001</th><th>~</th><th>2005</th><th>2006</th><th>~</th><th>2010</th><th>2011</th><th>~</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th><th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工種区分</td> <td>調査・設計</td> <td colspan="10">←————→</td> <td colspan="10">←————→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td colspan="10">←————→</td> <td colspan="10">←————→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td colspan="10">←————→</td> <td colspan="10">←————→</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業費 (億円)</td> <td>前回計画</td> <td>3.9</td><td></td><td>8.9</td><td></td><td></td><td></td><td>0.0</td><td></td><td></td><td>0.1</td><td></td><td></td><td>1.9</td><td></td><td></td><td></td><td>4.2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>17.8</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3.9</td><td></td><td>8.9</td><td></td><td></td><td></td><td>0.0</td><td></td><td></td><td>0.1</td><td></td><td></td><td>0.7</td><td></td><td></td><td></td><td>2.4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>今回計画</td> <td>3.9</td><td></td><td>8.9</td><td></td><td></td><td></td><td>0.0</td><td></td><td></td><td>0.1</td><td></td><td></td><td>0.7</td><td></td><td></td><td></td><td>2.4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1.8</td><td></td><td></td><td>17.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗率</th> </tr> <tr> <th>計画 【①】</th> <th>実績 【②】</th> <th>達成率(%) 【②÷①】</th> <th>計画 【③】</th> <th>達成率(%) 【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長(km)</td> <td>0.3</td> <td>0.1</td> <td>33%</td> <td>0.3</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>17.8</td> <td>16.0</td> <td>90%</td> <td>17.8</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>1.7</td> <td>0.5</td> <td>29%</td> <td>1.7</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>14.9</td> <td>14.3</td> <td>96%</td> <td>14.9</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>1.2</td> <td>1.2</td> <td>100%</td> <td>1.2</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【施工済みの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年末までに事業区間のうち、60mの整備が完了している。 <p>【事後評価に準ずるフォローアップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備により、歩行者・自転車の安全が確保された。 				1991	~	1995	1996	~	2000	2001	~	2005	2006	~	2010	2011	~	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計	工種区分	調査・設計	←————→										←————→											用地補償	←————→										←————→											工事	←————→										←————→											事業費 (億円)	前回計画	3.9		8.9				0.0			0.1			1.9				4.2								17.8	実績	3.9		8.9				0.0			0.1			0.7				2.4									今回計画	3.9		8.9				0.0			0.1			0.7				2.4					1.8			17.8		これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率		計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率(%) 【②÷③】	延長(km)	0.3	0.1	33%	0.3	33%	事業費(億円)	17.8	16.0	90%	17.8	90%	工事費	1.7	0.5	29%	1.7	29%	用補費	14.9	14.3	96%	14.9	96%	その他	1.2	1.2	100%	1.2	100%
			1991	~	1995	1996	~	2000	2001	~	2005	2006	~	2010	2011	~	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計																																																																																																																																																																																													
工種区分	調査・設計	←————→										←————→																																																																																																																																																																																																												
	用地補償	←————→										←————→																																																																																																																																																																																																												
	工事	←————→										←————→																																																																																																																																																																																																												
事業費 (億円)	前回計画	3.9		8.9				0.0			0.1			1.9				4.2								17.8																																																																																																																																																																																														
	実績	3.9		8.9				0.0			0.1			0.7				2.4																																																																																																																																																																																																						
	今回計画	3.9		8.9				0.0			0.1			0.7				2.4					1.8			17.8																																																																																																																																																																																														
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率																																																																																																																																																																																																																				
	計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率(%) 【②÷③】																																																																																																																																																																																																																			
延長(km)	0.3	0.1	33%	0.3	33%																																																																																																																																																																																																																			
事業費(億円)	17.8	16.0	90%	17.8	90%																																																																																																																																																																																																																			
工事費	1.7	0.5	29%	1.7	29%																																																																																																																																																																																																																			
用補費	14.9	14.3	96%	14.9	96%																																																																																																																																																																																																																			
その他	1.2	1.2	100%	1.2	100%																																																																																																																																																																																																																			
2) 未着手又は長期化の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、沿道で営業している商店等の用地交渉に時間を要しているため、事業が長期化している。 																																																																																																																																																																																																																							
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の用地買収が完了していない。 <p>【今後の見込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費ベースの進捗率は、用地補償約 96%、工事約 29%である。 ・用地交渉に時間を要してきた箇所については、移転地先の選定等に時間を要していたものの、選定地にめどが立ってきたことから、2022 年度には用地を取得できる見込みである。 ・今後も引き続き用地買収及び工事を進めることにより 2024 年度に完了する見込みである。 																																																																																																																																																																																																																							
判定	B	<p>A： これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B： 次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>○ これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要</p>																																																																																																																																																																																																																						

②事業の進捗状況及び見込み

		<p>因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、 ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																																	
		<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部の用地買収が未完了のため、事業が長期化しているが、引き続き用地買収及び工事を進めることにより、2024年度までに事業完了が見込めるため。 																																																	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">③事業の効果の変化</p>	<p>1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化</p>	<p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> H30.2に(国)マニュアルの改訂及びH22センサスペースのH42ODが公表されたため、改めてB/Cを算出する。 <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</p> <table border="1" data-bbox="371 571 1406 1218"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="371 571 758 692">区分</th> <th data-bbox="758 571 906 692">事業採択時 <small>(基準年：1992)</small></th> <th data-bbox="906 571 1070 692">再評価時 (1回目) <small>(基準年：2016)</small></th> <th data-bbox="1070 571 1235 692">再評価時 (2回目) <small>(基準年：2021)</small></th> <th data-bbox="1235 571 1406 692">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="371 692 475 853" rowspan="3">費用 (億円)</td> <td data-bbox="475 692 758 741">事業費</td> <td data-bbox="758 692 906 1218" rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">未実施</td> <td data-bbox="906 692 1070 741">35.9</td> <td data-bbox="1070 692 1235 741">34.0</td> <td data-bbox="1235 692 1406 741"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="475 741 758 790">維持管理費</td> <td data-bbox="906 741 1070 790">0.2</td> <td data-bbox="1070 741 1235 790">0.3</td> <td data-bbox="1235 741 1406 790"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="475 790 758 853">合計 (C)</td> <td data-bbox="906 790 1070 853">36.1</td> <td data-bbox="1070 790 1235 853">34.3</td> <td data-bbox="1235 790 1406 853"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 853 475 1041" rowspan="4">効果 (億円)</td> <td data-bbox="475 853 758 902">走行時間短縮便益</td> <td data-bbox="906 853 1070 902">47.8</td> <td data-bbox="1070 853 1235 902">41.1</td> <td data-bbox="1235 853 1406 902"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="475 902 758 952">走行経費削減便益</td> <td data-bbox="906 902 1070 952">5.4</td> <td data-bbox="1070 902 1235 952">2.9</td> <td data-bbox="1235 902 1406 952"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="475 952 758 1001">交通事故減少便益</td> <td data-bbox="906 952 1070 1001">0.3</td> <td data-bbox="1070 952 1235 1001">0.5</td> <td data-bbox="1235 952 1406 1001"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="475 1001 758 1041">合計 (B)</td> <td data-bbox="906 1001 1070 1041">53.5</td> <td data-bbox="1070 1001 1235 1041">44.4</td> <td data-bbox="1235 1001 1406 1041"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1041 475 1167">(参考)</td> <td data-bbox="475 1041 758 1167">計画 算定 要因</td> <td data-bbox="758 1041 906 1167">交通量 (台/日)</td> <td data-bbox="906 1041 1070 1167">12,100</td> <td data-bbox="1070 1041 1235 1167">11,600</td> <td data-bbox="1235 1041 1406 1167"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="371 1167 758 1218">費用対効果分析結果 (B/C)</td> <td data-bbox="758 1167 906 1218"></td> <td data-bbox="906 1167 1070 1218">1.5</td> <td data-bbox="1070 1167 1235 1218">1.3</td> <td data-bbox="1235 1167 1406 1218"></td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したもの。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用便益分析マニュアル（平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局） <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再評価時に貨幣換算化可能な効果（B/C）分析を行った結果、B/Cは1.0を超えている。 	区分		事業採択時 <small>(基準年：1992)</small>	再評価時 (1回目) <small>(基準年：2016)</small>	再評価時 (2回目) <small>(基準年：2021)</small>	備考	費用 (億円)	事業費	未実施	35.9	34.0		維持管理費	0.2	0.3		合計 (C)	36.1	34.3		効果 (億円)	走行時間短縮便益	47.8	41.1		走行経費削減便益	5.4	2.9		交通事故減少便益	0.3	0.5		合計 (B)	53.5	44.4		(参考)	計画 算定 要因	交通量 (台/日)	12,100	11,600		費用対効果分析結果 (B/C)			1.5	1.3	
	区分		事業採択時 <small>(基準年：1992)</small>	再評価時 (1回目) <small>(基準年：2016)</small>	再評価時 (2回目) <small>(基準年：2021)</small>	備考																																													
	費用 (億円)	事業費	未実施	35.9	34.0																																														
		維持管理費		0.2	0.3																																														
		合計 (C)		36.1	34.3																																														
	効果 (億円)	走行時間短縮便益		47.8	41.1																																														
		走行経費削減便益		5.4	2.9																																														
		交通事故減少便益		0.3	0.5																																														
		合計 (B)		53.5	44.4																																														
	(参考)	計画 算定 要因		交通量 (台/日)	12,100	11,600																																													
費用対効果分析結果 (B/C)				1.5	1.3																																														

2) 貨幣価値化困難な効果の変化

【事業採択時の状況】

※事業採択時未実施

【再評価時の状況】

・「貨幣価値化困難な効果 評価基準表」に基づき評価した評価値は0.89である。

達成目標 (社会資本整備方針)		評価対象の判断	貨幣価値化困難な効果 評価基準表 評価項目	基礎点	得点
2 あいちを守る	③地震・津波対策	◎	<ul style="list-style-type: none"> ■ a) 広域的な防災機能の向上が期待できる <input type="checkbox"/> 地震対策アクションプランなど地震防災関連の整備計画に位置付けられた事業に該当する ■ 緊急輸送道路ネットワークの強化に資する事業に該当する <input type="checkbox"/> 緊急輸送道路へのアクセス強化に資する事業に該当する 	MAX3	2
			<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 沿線又は周辺に学校、病院、福祉施設、その他公共・公益施設等が位置する区間における交通安全対策事業に該当する <input type="checkbox"/> その他交通弱者に対する交通安全性向上が期待できる事業に該当する 	3	
	⑥交通事故対策	◎	<ul style="list-style-type: none"> ■ b) 交通弱者に対する安全性向上が期待できる 通学路や未就学児が日常的に移動する経路の安全性向上に資する事業、交通バリアフリー法における特定道路または重点整備地区における事業、生活道路の交通安全対策エリアにおける事業、自転車活用推進計画または自転車ネットワーク計画に位置付けられた事業に該当する <input type="checkbox"/> 沿線又は周辺に学校、病院、福祉施設、その他公共・公益施設等が位置する区間における交通安全対策事業に該当する <input type="checkbox"/> その他交通弱者に対する交通安全性向上が期待できる事業に該当する 	MAX3	3
			<ul style="list-style-type: none"> ■ d) 歩行者・自転車の利便性・安全性の向上が期待される 歩行者・自転車交通の多い区間(500人/日程度)において、歩行者、自転車の利用空間の整備により、歩行者・自転車の通行の快適性・安全性の向上が期待される <input type="checkbox"/> DID区域内で歩道がない又は歩道幅員が狭小の区間における歩道の整備に該当し、歩行者・自転車の通行の快適性・安全性の向上が期待される <input type="checkbox"/> その他、市街地における歩行者・自転車の利便性・安全性の向上が期待される事業に該当する 	MAX3	
合計				3	2
総合計				9	8
評価値				0.89	

道路・街路事業の事業評価マニュアル（令和3年3月 愛知県建設局 道路維持課・道路建設課 都市整備局 都市基盤部 都市整備課）

【変動要因の分析】

・評価基準表により貨幣価値化困難な効果について検証した結果、評価値については0.6を超えている。

判定

A

- A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。
- B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。
- C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。

【理由】

・B/Cは1.0を超えており、貨幣価値化困難な効果の評価値についても0.6を超えていることから、事業効果の発現が期待できるため。

III 対応方針（案）

継続

中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。
継続：上記以外のもの。

IV 事後評価実施の有無と主な評価内容

■対象（事業完了後5年目） □対象外

【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】

—

【主な評価内容】

・交通量、安全性の改善状況

V 事業評価監視委員会の意見

都市計画道路伏見町線（二見町工区）の対応方針（案）[事業継続]を了承する。

VI 対応方針

事業継続